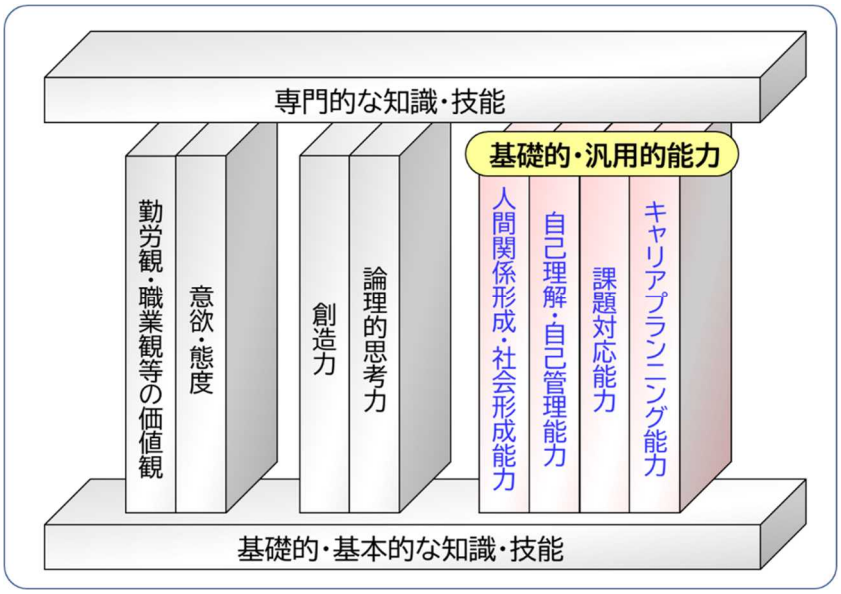
（２）社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力＝「基礎的・汎用的能力」

社会的・職業的自立とは、

- 社会における自己の立場に応じた様々な役割（ライフ・ロール）を果たしつつ、自分らしい生き方を展望し、実現していくこと。
- 多様なライフ・ロールの中で「働くこと」は広く捉えれば「自分の力を発揮して社会（あるいはそれを構成する個人や集団）に貢献すること」だが、社会・職業への円滑な移行という課題を踏まえ、その中の「仕事に就くこと」に焦点を当て、そこで役割を果たすこと。

社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素は、下図のように構成されています。



基礎的・汎用的能力は、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力です。

基礎的・汎用的能力の具体的内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の４つに整理されています。

学校教育においては、基礎的・基本的な知識・技能や専門的な知識・技能とともに、子どもや若者がどのような状況におかれても、社会に適応したり、置かれている状況を自分で打ち破ったりしながら、社会の中で自分の能力を発揮できるようにする必要があります。このため、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力＝「基礎的・汎用的能力」や同じく基盤となる態度を育成することが極めて重要です。

■ 「基礎的・汎用的能力」の具体的な内容・要素

人間関係形成・社会形成能力

この能力は、社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力です。特に、価値の多様化が進む現代社会においては、性別、年齢、個性、価値観等の多様な人材が活躍しており、様々な他者を認めつつ、それらと協働していく力が必要です。また、変化の激しい今日においては、既存の社会に参画し、適応しつつ、必要であれば自ら新たな社会を創造・構築していくことが必要です。さらに、人や社会とのかかわりは、自分に必要な知識や技能、能力、態度を気付かせてくれるものでもあり、自らを育成する上でも影響を与えるものです。

具体的な要素（例）：他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップなど。

自己理解・自己管理能力

この能力は、子どもの自信や自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力です。変化の激しい社会において他者との協力や協働が求められている中では、自らの思考や感情を律する力や自らを研鑽する力がますます重要です。これらは、キャリア形成や人間関係形成における基盤となるもので、とりわけ自己理解能力は、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要があります。

具体的な要素（例）：自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動など。

※　ストレッサーに対する人間の心身のメカニズムや反応を理解し、ストレス反応を軽減あるいはストレス障害の予防や回復を行うことをいう。（文部科学省）

課題対応能力

この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものです。また、知識基盤社会の到来やグローバル化などを踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力です。さらに、社会の情報化に伴い、情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力を身に付けることも重要です。

具体的な要素（例）：情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善など。

キャリアプランニング能力

この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力です。

具体的な要素（例）：学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善など。

それぞれの能力を別々に位置付けるのではなく、それぞれ関連し合っていることを再認識し、子どもたちの「生きる力」の育成に向けて同じベクトルで進めていることを意識することが大切です。

また、学校教育では、各教科の指導や道徳、総合的な学習（探究）の時間等での指導をはじめとして、タブレット等を活用した授業づくりなど様々な教育を推進していく必要があります。

キャリア教育の充実に向けて、学校や児童生徒の実態に応じて、この４つの能力の表記を分かりやすくしたり、付け加えたりして工夫することも可能です。